

留学体験記 Message from Overseas



No. 11

See you down the road.

公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院
糖尿病内分泌内科副部長

渋江 公尊

公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院 糖尿病内分泌内科に勤務しております渋江公尊と申します。私は京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学教室の稲垣暢也教授より学位取得後に留学のお話をいただき、2017年3月より2021年6月まで米国マサチューセッツ州ボストンにあるジョスリン糖尿病センターのKulkarni研究室にリサーチフェローとして留学しておりました。

2017年3月11日の暮れ、私は成田空港からボストン・ローガン国際空港へ向かうJALの直行便の機上にいました。到着の1時間前、機内に「ただいま現地の天候は雪、気温は華氏17度(摂氏マイナス8度)との報告を受けております」というアナウンスが流れたことを今でも鮮明に覚えています。その日は到着後ジョスリンにおられる日本人の先生方に協力いただき、新居へ家具を運ぶ段取りになっていました。厳寒の夜、真っ暗な何も無い部屋に日本人の先生方3人と机やソファ、ベッドを黙々と運び込んだのが私の米国生活の始まりでした。荷物の積まれた部屋の窓の外に広がる一面の雪景色は、これから始まる生活への期待と不安を包み込むような白さでした。

留学しているボストン市は米国のなかで最も古い歴史をもつニューイングランド地方の中心となる都市で、大西洋に面した港町です。ダウンタウンに出ると米国独立戦争にまつわる多くの建物を目にすることができ、また

市内には日本とゆかりが深く東洋美術の膨大なコレクションを有するボストン美術館をはじめとする文化施設が数多く点在しています。ハーバード大学医学部の関連施設であるジョスリン糖尿病センターは、ボストン市の西端に位置するロングウッドと呼ばれる地区にあり、ここにはハーバード大学の医学部とその関連病院群が所狭しと集積しています。そのため研究所周辺のカフェやフードコートは昼になると白衣やスクラブを着た病院関係者で賑わいます。

私の留学したKulkarni研究室は膵島細胞(主に β 細胞)の新規増殖因子や再生を主な研究テーマとしていますが、この分野は日進月歩で新しい研究成果が論文で発表されるスピードも早く、どの機能に焦点を絞ってメカニズムを詰めていくか、ボスと何度も相談しながら最終的に膵 α 細胞についての研究を始めることになりました。米国における糖尿病基礎研究では、献体から得られたヒトの膵島を積極的に研究に用いていることが特色としてあげられると思います。こちらでは研究用ヒト膵島提供機構としてIIDP (the Integrated Islet Distribution Program) と呼ばれる公的ネットワークがあり、献体が米国内で発生するとネットワークを通して膵島の受け取り意思を確認するメールがラボへ届きます。膵島を希望する場合は希望する数を返信し、事務局が希望者数や膵島量を考慮してマッチングを行います。希望施設が多ければ受け取れないこともしばしばあり、例えば2型糖尿